



Junior Chamber International Handa
公益社団法人 半田青年会議所

JCI HANDA
STRATEGIC PLAN
60th-65th

2024 - 2029





Contents

STRATEGIC PLAN
2024-2029

002	Vision Statement
003	Strategic Map
004	縦軸 横軸
005	現状分析
007	地域
008	地域×社会
008	地域×経済
009	地域×環境
009	地域×人材
010	地域×組織
011	国際
012	国際×社会
012	国際×経済
013	国際×環境
013	国際×人材
014	国際×組織
015	数年後の未来
016	Credit



Vision Statement

未来に誇れる希望に満ちた 地域を創造しよう そして、 未来のために行動し続けよう

今、改めて半田青年会議所の原点に立ち返り、組織としての価値、存在意義を見つめ直さなければなりません。

私たちは本当に地域にとって必要な存在なのか、地域へどのようなインパクトを与えられているのだろうか。

私たちはこの地域に対し、どんな未来を描き、何を育み、何を変革する必要があるだろうか。

いつの時代も、試行錯誤を繰り返し、自らの信じた道を突き進み、挑戦してきた人たちがいます。

それが、私たち半田青年会議所です。

半田青年会議所は、1965年の創立以来、常に地域に向き合い、挑戦を続けてきました。

半田青年会議所だからこそできること、半田青年会議所にしかできないことがまだまだあります。

しかし、私たち青年会議所だけでは、この地域を良くすることはできません。

この地域に携わる全ての人たちとともに行動することで、より良い地域の創造へと繋がります。

私たちが目指す未来を明確にするために、このStrategic Planを作成しました。

この街が大好きだからこそ、目を逸らさず、課題に向き合わなければなりません。

この街の未来を守るために、今すぐにも、行動をしなければなりません。

自分たちの住み暮らす地域のため

自分自身の成長のため

子供たちの未来を守るため

このStrategic Planが明るい豊かな未来を切り拓く一助になることを願っています。



Strategic Map

地域

社会

広域連携
プラットフォーム

経済

地域資源を活用した
地域経済の活性化

環境

ゼロカーボンシティ
の実現

人材

主権者意識の
向上

組織

半田JCの
価値向上

子供を産み育てやすい
地域社会づくり

最先端の技術や
テクノロジーの活用

ウェルビーイング
シティの実現

主体的に行動できる
人材の育成

他分野とのパートナ
シップを構築

住みたいと思われ
るまちづくり

雇用機会の
多様化

官民連携による
環境改善

時代に即した
人材の育成

時代に即した
組織運営



国際

社会

地域の魅力を
世界へ発信

経済

インバウンドビジネス
の推進

環境

環境都市知多半島の
創造

人材

アイデンティティ
教育

組織

国際機会の
提供

インバウンドに対応
したまちづくり

外国人雇用の
受け入れ推進

他国への
環境支援

国際的な平和の
実現

海外支援事業の
実施

多文化共生社会の
実現

商圏を世界へと広げる
ビジネスモデル

環境教育事業の
実施

グローバルリーダーの
育成

姉妹JCとの
共同事業





縦軸 × 横軸

Strategic Plan(戦略的計画)とは、半田JCが知多半島をより良くするために今後起こすべきアクションを示した航海図です。

半田JCは明るい豊かな社会の実現のため青年に成長と発展の機会を提供し地域のあらゆるパートナーと手を取り合いこの戦略的計画を実行します。

本計画は半田JCが果敢に挑戦していくための計画であり、その指標として定めています。

縦軸

地域・国際

半田JCが取り組むべき分野



横軸

社会・経済・環境・人材・組織

これから取り組んでいく課題としての分野



現状分析

社会

現状・課題

人口の減少や高齢化は、地域の経済や社会活動に影響を与え、地域の持続可能な発展を妨げる要因となっています。さらに、過疎化が進むと地域の基本的なサービスやインフラが維持されにくくなり、地域住民の生活に支障をきたす可能性があります。また、海面に隣接する地域が多い知多半島では 自然災害に対するリスクが高まり十分な防災対策が求められています。

あるべき姿

社会課題により危機感や不安が増していますが、その中で解決に向けて取り組む人たちがいるのも事実です。地域課題を自分事としてとらえる意識が広がれば、魅力的なまちづくりや産学官民連携の防災プラットフォーム構築が可能です。全国にネットワークをもつ半田JCでは、独自の視点や他の地域での成功事例を活用し、効果的な課題解決に取り組むことができます。今までの知識とアイデアをベースにした先進的な考えを取り入れながら、住民、企業、行政、各種団体を巻き込んだ運動の展開が必要です。

経済

現状・課題

急激な人口構造の変化は、地域の雇用環境にも大きな影響を与えています。新たな技術の導入やテクノロジーにより一部の業種では雇用の減少や労働条件の変化が起こる可能性があります。現状の課題である労働者のスキル向上や雇用形態の柔軟性が叶わなければ知多半島の持続的な経済発展は望めません。新たな産業や職種の創出により、雇用の機会を多様化させる取り組みが求められています。

あるべき姿

人口減少や高齢化といった課題に直面しつつも、知多半島には地域としての魅力があります。地域の特性を活かした新たな産業を創出し、最先端の技術やテクノロジーを活用することで産業の多様化が実現します。また、地域経済活性化のためにインバウンド需要の拡大や、JCのネットワークを活かした多種多様なパートナーと連携した運動の展開をすることが必要です。

環境

現状・課題

人為的な自然環境破壊は世界的な課題であり、知多半島においても気候変動は地域の生活に影響を与えています。海面上昇や異常気象が生態系や農漁業に影響を及ぼし、地域の人々の生活や災害への不安をもたらしています。SDGsに代表される持続可能な開発目標の枠組みを活用し、地域社会全体が積極的に環境保護と気候変動対策へ取り組むことが求められています。

あるべき姿

社会的な不安が広がる中、SDGsの推進によりカーボンニュートラルやウェルビーイングの理念が世界的に注目されています。この理念を知多半島に浸透させることで、世界的に見ても誇れる豊かな地域環境を実現することができます。半田JCの活動を通じて環境整備の必要性を広め、住民の環境意識を高める運動の展開が必要です。



現状分析

人材

現状・課題

地域課題への当事者意識の希薄化は個々の地域や政治に対する無関心に繋がり、社会構造の格差は地域全体の競争力低下や教育格差の拡大を招いています。このままでは人々が自らの存在意義や価値を見出せなくなり、アイデンティティの乏しい人材が増加します。また、社会が急速に変化する現代においては、時代に即した人材の育成が求められています。

あるべき姿

SDGsの推進により、日本でも持続可能な社会への関心が高まり、人材育成への投資が注目されています。この動きは、国際的な視点をもつことで環境や社会的課題への取り組みが加速し、人材育成においても持続可能な社会を築く必要性が浮き彫りになりました。国内外にネットワークをもつJCでは、地域のパートナーと連携し新たなテクノロジーを活用することで、自ら課題解決に向けて取り組むことができる時代に即した人材の育成が必要です。

組織

現状・課題

現代社会では多様性が増え、価値観や物事のとらえ方、ライフスタイルが各個人によって異なってきた結果、会員の目的意識を統一することが難しくなっています。この複雑化する状況下において、半田JCの存在価値を改めて確立することが必要です。地域社会の現状を鑑みれば将来的に入会対象者が減少する見通しであり、組織の状況は一層厳しくなる傾向にあります。これからは、地域社会と同様に、人数が減少しても組織の価値を維持することが求められています。

あるべき姿

今後も半田JCが持続可能な組織であり続けるためには時代に即した組織の価値観へ更新し、地域から共感を得て賛同者を増やすことが必要です。このStrategic Planを基に、個人と組織の価値を見極め、共感を生むブランディングを展開し、社会の変化に適応しながら地域のリーダーを輩出できる組織であり続けることが必要です。

地域



地域 × 社会

- 1 産学官民が連携した防災プラットフォームの構築に向けた、防災意識を高める事業の実施
- 2 持続可能な社会構造のために、子供を産み育てやすい地域社会を創造する運動の実施
- 3 住みたいと思われる魅力的な地域づくりのために、全国の成功モデルを導入したまちづくり事業の実施

地域 × 経済

- 1 地域経済活性化のために、地域性・地域資源を活かした新たな産業の創出に向けた事業の実施
- 2 地域経済発展のために、最先端の技術やテクノロジーの必要性を広める事業の実施
- 3 誰もが活躍できる地域社会の創造に向けて、雇用機会の多様化を推進する運動の実施



地域 × 環境

- 1 環境問題への当事者意識醸成のために、ゼロカーボンシティ実現に向けた運動の実施
- 2 ウェルビーイングシティ実現のために、導入する必要性とメリットを発信する事業の実施
- 3 住民の自然環境に対する意識向上のために、官民連携による環境改善事業の実施

地域 × 人材

- 1 若年層の主権者意識向上のために、政策を討論する機会の創出
- 2 主体的に行動できる人材を育成するために、個人のアイデンティティを確立する事業の実施
- 3 社会課題を解決するために、地域に必要とされるリーダーを育成する事業の実施



地域 × 組織(半田JC)

- 1 半田JCの価値を向上するために、地域から共感を得られるブランディングの推進
- 2 半田JCが行う事業・運動の効果を最大化するために、あらゆる分野とのパートナーシップの構築
- 3 持続可能な組織を構築するために、時代に即した組織運営を推進



国際



国際 × 社会

- 1 地域の魅力を世界へ発信するために、国際大会でのブース出展事業の実施
- 2 国際競争に取り残されないために、インバウンドに対応したまちづくり事業の実施
- 3 多文化共生社会の実現に向けた、国際交流事業の実施

国際 × 経済

- 1 地域経済を活性化するために、インバウンドビジネスを推進する事業の実施
- 2 労働人口の減少に対応するために、外国人雇用の受け入れを推進する事業の実施
- 3 世界で稼ぐ力を向上するために、商圏を世界へと広げるビジネスモデルを推進する事業の実施





国際 × 環境

- 1 環境都市知多半島を推進するために、国際的な環境施策の機会を提供する事業の実施
- 2 世界的な環境問題を解決するために、他国への環境支援事業の実施
- 3 環境に対する市民の意識を変革するために、地域への環境教育事業の実施



国際 × 人材

- 1 国際的に活躍する人材を育むために、個々のアイデンティティを確立する教育事業の実施
- 2 国際的な平和の実現に向けて、利他的な精神をもった人材を育成する事業の実施
- 3 国際競争社会で生き残る地域となるために、グローバルリーダーを育成する事業の実施



国際 × 組織(半田JC)

- 1 国際的な視野を育むために、メンバーへ国際の機会を推進
- 2 国際的な繋がりを強化するために、海外支援事業の実施
- 3 国際の機会を地域へ提供するため、海外姉妹JCとの共同事業の実施





数年後の未来

想像してみてください。

数年後の知多半島と私たち。

自然災害への危機意識が高まり、大切な人の命、生活を守るための環境が整っている。

テクノロジーの進化により生活が便利で豊かになるとともに、人と人の繋がりも深まり、街が活気で溢れている。

経済の成長とともに、かつて犠牲にされていた自然環境が回復し、日本だけでなく世界中から観光客で溢れる魅力的な地域となり、新しいビジネスが躍進している。

新たな地域課題が発生しても、解決に向けて率先して行動できる人たちがいる。

JCという存在が広く認知され、理念に共感した人が増え、職種、性別、国籍、立場関係なく、誰でも活躍できる地域にとってなくてはならない組織になっている。

青年会議所が率先して行動することで、得られる明るい未来。

変革に迫られる前に、半田青年会議所が先頭に立ち、この未来を切り拓いていきます。

今、行動すれば未来は変わる。

共に未来へ誇れる希望に満ちた地域を創造していきましょう。

JCI HANDA 2024-2029 ビジョン策定会議メンバー

議長	今野 直紀
副議長	森脇 奨太
幹事	辻元 隆虎
委員	間瀬 理子
委員	畑中 剛樹
委員	金子 徹
委員	橋詰 豊
委員	平林 樹明
委員	松石 陽介
アドバイザー	加藤 大将
アドバイザー	戸嶋 一将
アドバイザー	加藤 大典

最後に

このJCI HANDA 2024-2029 Strategic Planが、
事業・運動の構築へ向けた道標になること、
知多半島が「明るい豊かな社会」へ向け一歩でも前に進むこと、
半田JCが地域から求められる存在であり続けること、
5年後の未来が今よりも良くなっていることを心より願い作成しました。
We Believe～

人類への奉仕が人生最大の使命である。

2024年05月12日
JCI HANDA 2024-2029 ビジョン策定会議 今野 直紀

